

ほうきこふんぐん  
**法貴古墳群** 第2・3次調査

調査場所 亀岡市曾我部町法貴地先  
調査期間 第2次:令和5年5月6日～令和6年2月29日  
第3次:令和6年4月22日～令和6年9月下旬(予定)  
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



**法貴34号墳**  
直径約8mの円墳で、埋葬施設は全長約4.3m、幅約0.9mを測る無袖式の横穴式石室です。石室内からは法貴古墳群では初めてとなる長さ72cmの靴尻金具を持つ鉄刀が出土しました。出土状況から、棺の上におかれていたと考えられます。このほか鉄鏃10点、刀子2点、飛鳥時代の須恵器が3点出土しました。小規模な古墳ですが、有力者が埋葬されていたのではないのでしょうか。

写真6 左:法貴34号墳遺物出土状況(南東から)  
右:法貴34号墳出土鉄刀

**まとめ**

法貴古墳群では、これまでの発掘調査を含めて、18基の古墳、1基の火葬墓の調査を行いました。多くの古墳を調査したことで、古墳時代後期中頃から円墳が造られ、飛鳥時代中頃には24号墳が方墳として、奈良時代になると火葬墓が造られるという法貴古墳群の変遷が明らかとなりました。(下表)  
円墳からなる古墳群の中に、飛鳥時代になると方墳が造られる事例は、近接する小金岐古墳群や国分古墳群(亀岡市)のほかに、大和の三ツ塚古墳群(奈良県)などでも確認されています。円墳から方墳へと古墳の形が変わっていくことは、古墳を造ることが少なくなっていく、7世紀以降の変化が、法貴古墳群でも起こっていたことを示しています。

表 法貴古墳群の変遷

区分	時期	古墳名	特徴
I期	古墳時代後期中頃 (6世紀中頃)	● 56号墳	やや正方形に近い石室 西に石室が開口する古墳
II期	古墳時代後期後半 (6世紀後半)	● 20号墳 ● 27号墳 ● 33号墳	標高210m前後に造られる 奥壁幅が1.2mを超える
III期	古墳時代後期末～ 飛鳥時代前半 (6世紀末から7世紀前半)	● 28号墳 ● 30号墳 ● 34号墳 ● 61号墳 ● 63号墳 ○ 67号墳	II期の古墳の周辺に造られる 奥壁幅が0.9m前後
IV期	飛鳥時代中頃 (7世紀中頃)	■ 24号墳	2段築成の方墳 石垣状の列石を持つ
V期	奈良時代前半 (8世紀前半)	火葬墓 S X 08	1辺0.9mの木製容器 古墳を避けて造られている

時期不明 ● 25号墳 ● 26号墳 ○ 29号墳 ● 51号墳 ● 53号墳 ○ 54号墳 ● 55号墳

時期は出土遺物や石室の特徴から区分

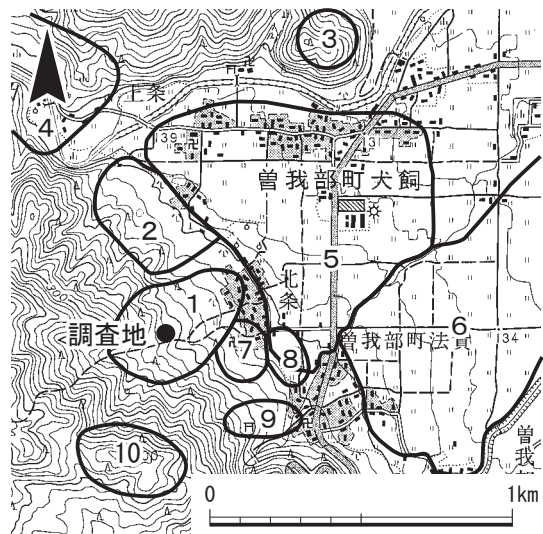
白抜きは推定墳形



24号墳全景(南東から)







第1図 調査地位置図 (1/25,000)

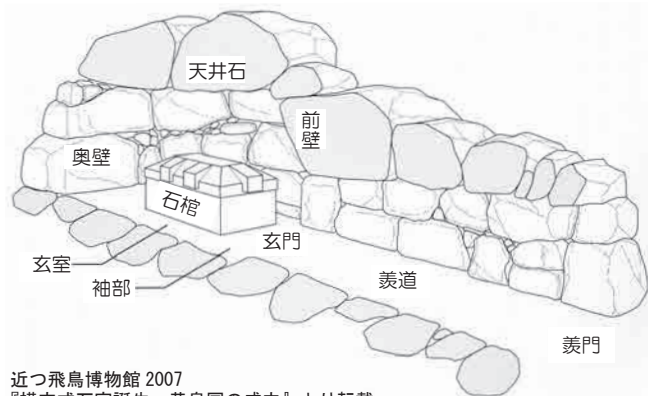
- 1. 法貴古墳群 2. 法貴北古墳群 3. 大飼城跡
- 4. 大飼古墳群 5. 大飼遺跡 6. 金生寺遺跡
- 7. 慈雲寺裏山古墳群 8. 法貴館跡
- 9. 法貴南古墳群 10. 法貴山城跡

## はじめに

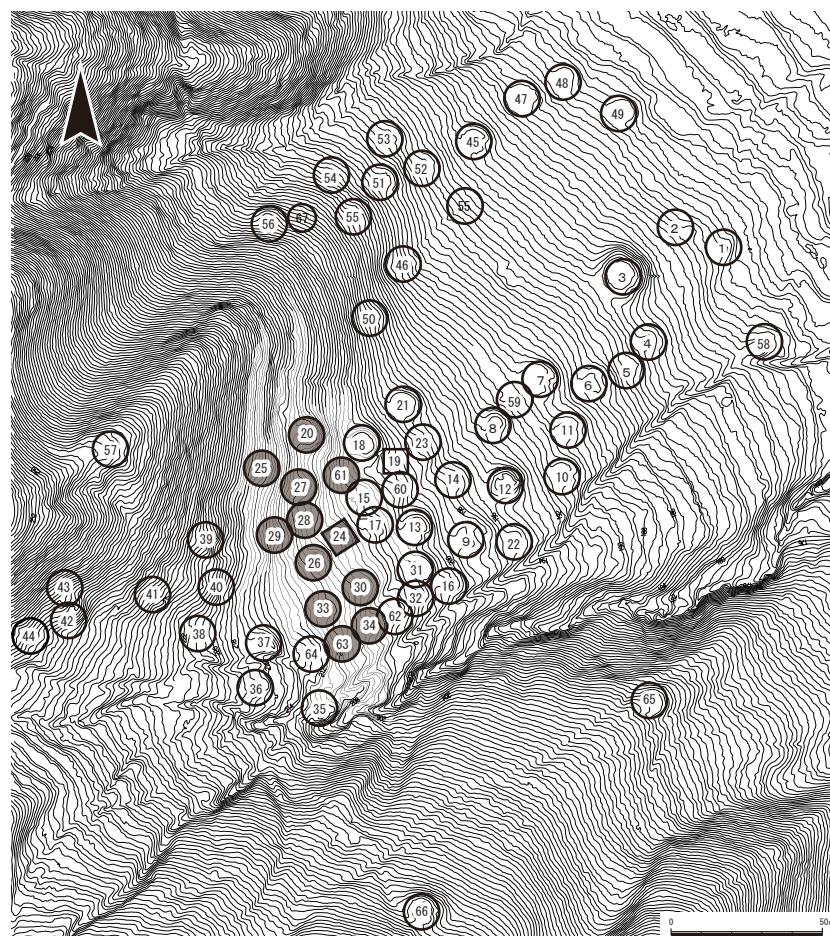
今回の発掘調査は、国道423号（法貴バイパス）の建設に伴うものです。法貴古墳群は霊仙ヶ岳の山麓に造られた67基の古墳からなる古墳群です。1964年に箱式石棺を埋葬施設とする1辺4mの小型の方墳（19号墳）が発見されました。これまでに古墳時代後期中頃（6世紀中頃）から横穴式石室を持つ古墳が築かれ始め、奈良時代（8世紀）に火葬墓が営まれるまで約200年間使われた墓域であることがわかっています。

今回、発掘調査を実施したのは法貴古墳群の中でも、もっとも古墳が集中するエリアに所在する12基です。

### 横穴式石室の各部名称



近つ飛鳥博物館 2007  
『横穴式石室誕生 黄泉国の成立』より転載



第2図 法貴古墳群古墳分布図（トーンが今回調査）

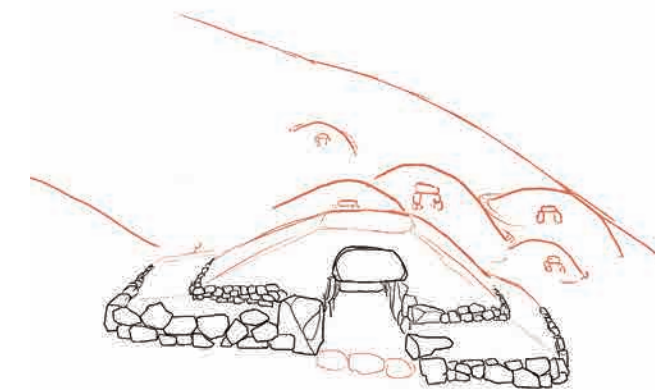


写真1 今回の調査地全景（南東から）

## 法貴24号墳



写真2 法貴24号墳全景（南から）



24号墳 推定復元図



写真3 法貴24号墳石垣状の列石（南西から）

無袖式の横穴式石室を埋葬施設とする長辺約10m、短辺約7mの方墳です。墳丘は二段築成で、墳丘裾には石垣状の列石が二重にめぐります。さらに周辺の古墳を削ったり埋めたりして空閑地くわかんちを設けています。石室の中から副葬品はほとんど見つかりませんが、古墳や石室の形、周辺から出土する須恵器などから飛鳥時代中頃の古墳と考えられます。

## 法貴20号墳



写真4 法貴20号墳全景（南東から）



写真5 法貴20号墳玄室全景（南東から）

直径約10mの円墳で、両袖式の横穴式石室を埋葬施設とする古墳です。墳丘及び天井石が残っています。石室全長7.7m、玄室長3m、奥壁幅1.4mを測ります。石室内には木棺の痕跡が確認できました。古墳時代後期後半（6世紀後半）に造られ、飛鳥時代の初め（7世紀初頭）に追葬が行われたことがわかりました。

### 法貴古墳群に横穴式石室が造られた時代

西暦	時代
	旧石器時代
	縄文時代
	弥生時代
250	古墳時代 前期
400	古墳時代 中期
600	古墳時代 後期
	飛鳥時代
710	奈良時代
794	平安時代
1185	鎌倉時代
	南北朝時代
1333	室町時代
	安土桃山時代
1603	江戸時代
	近代

